

第 408 回液体クロマトグラフィー研究懇談会

主催 (公社)日本分析化学会・液体クロマトグラフィー(LC)研究懇談会

後援 (公社)日本薬学会(申請中), (公社)日本化学会, (公社)日本農芸化学会, (公社)日本分析化学会

質量分析計(MS)は, 検出感度と定性解析能力の高さから, (U) HPLCの検出器の一つとして確固たる地位を築いている。しかし, MSはLC/MS以外にも, GC/MS, イメージングMS, アンビエントMSなど, さまざまな使われ方をしている。本例会では, 広い視点でMSを捉え, 最新技術や応用例を紹介する。

期日 2025年6月20日(金) 13.00~17.20

会場 (株)日立ハイテクアナリシス サイエンスソリューションラボ東京〔東京都中央区新富2-15-5 RBM築地ビル, 交通: 東京メトロ有楽町線「新富町」駅より徒歩1分(5番出口利用), 東京メトロ日比谷線「築地」駅より徒歩4分(4番出口利用), JR京葉線, 東京メトロ日比谷線「八丁堀」駅より徒歩8分(A3出口利用)〕

<https://www.google.com/maps/search/?api=1&query=35.671216%2C139.775152>

講演主題 MS, LC/MSの最新技術と応用例
講演

講演主題概説(オーガナイザー)(13.00~13.05)
(浜松医科大学/エムエス・ソリューションズ(株)/
(株)プレッパーズ)高橋 豊
(LC分析士二段, LC/MS分析士五段)

1. 転写プレートを用いた質量分析イメージング
(13.05~13.40)

(浜松医科大学/エムエス・ソリューションズ(株)/
(株)プレッパーズ)高橋 豊
(LC分析士二段, LC/MS分析士五段)

2. 最新の質量分析計とユニークな分析アプローチの紹介
(13.40~14.15)

((株)島津製作所)服部考成
(LC/MS分析士初段)

3. 次世代のハイスループット質量分析テクノロジーあれこれ
(14.15~14.50)

((株)イービー・サイエックス)下津祐樹
(LC/MS分析士取得予定)

休憩(14.50~15.05)

4. Astral Analyzerの特徴とプロテオミクス研究における活用
例(15.05~15.40)

(サーモフィッシャーサイエンティフィック(株))
渡邊史生(LC/MS分析士初段)

5. 高感度オミクスを実現するtimsTOFシリーズの最新情報
の御紹介(15.40~16.15)

(ブルカージャパン(株))中林 亮
(LC/MS分析士取得予定)

6. 高分解能質量分析計と機械学習の統合による解析効率の
向上(16.15~16.50)

(日本電子(株))佐藤貴弥
(LC/MS分析士初段)

7. 総括「MS, LC/MSの最新技術と応用例」(16.50~17.20)

(東京理科大学)中村 洋
(LCマイスター, LC/MSマイスター)

参加費 ①学生:1,000円, ②LC懇・個人会員:2,000円, ③
LC懇・団体会員:3,000円, ④後援学会・個人会員:4,000
円, ⑤後援学会・団体会員:4,500円, ⑥その他:5,000円。
参加申込締切後の受付はできませんので, ご了承ください。

情報交換会 終了後, 講師を囲んで情報交換会を開催します
(会費5,000円)。参加申込締切後のご参加はできませんので,

参加希望者は必ず事前にお申し込みください。

申込締切日 2025年6月11日(水)入金締切時刻:15時まで)

申込方法

1. 参加希望者は, 下記申込先にアクセスし, 氏名, 勤務先
(電話番号), LC研究懇談会・個人会員, 協賛学会・個人
会員, その他の別および情報交換会参加の有無を明記
のうえ, お申込みください。なお, 参加者名と振込者名
が違う場合は, 参加申込書の連絡事項欄に振込者名を明
記してください。

2. お申込みが完了した場合には, 登録されたアドレス欄に
「第408液体クロマトグラフィー研究懇談会申込み受付
(自動返信)」のメールが届きます。メールが届かない場
合は, ①入力したご自分のアドレスに間違いがないか,
②迷惑メールフォルダーをご確認のうえ, 世話人までお
問い合わせください。

3. 申込み受付のメールを受領後, 必ず期限内に研究懇談会
参加費, 情報交換会費の納入を行ってください。期限内
に納入が確認できない場合, お申込みを無効とし参加
URLを発行しませんので, 十分ご注意ください。当日払
いは受け付けません。なお, いったん納入された参加費
は, 返金いたしません。

4. 参加費の納入が確認できた方には, 2025年6月13日以
降に要旨集をメールにてお送りいたします。必要に応じ
てプリントアウトしてご参加ください。また, 請求書の
発行はいたしておりません。

液体クロマトグラフィー研究懇談会(例会)参加費送金時のご
注意

例会参加費, 情報交換会費を送金される場合, 下記を禁止し
ておりますので, ご理解のほどよろしくお願いいたします。

- 複数例会の参加費の同時振込
(→例会ごとに振り込んでください)
- 複数参加者の参加費の同時振込
(→参加者ごとに振り込んでください)
- 年会費や他の費用との合算振込
(→費目ごとに振り込んでください)

申込先 <https://forms.gle/N7KrCaiAK65Xafsu8>

(学生申込者は, 所属欄に大学名, 学部, 学年を記載)

銀行送金先 りそな銀行五反田支店(普通)1754341, 口座名
義:シヤ)ニホンブンセキカガクカイ〔公益社団法人日本分
析化学会・液体クロマトグラフィー研究懇談会〕

問合先 (公社)日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究
懇談会 世話人 浜松医科大学/エムエス・ソリューション
ズ(株)/(株)プレッパーズ 高橋 豊
[E-mail: tyutaka@sitsuryobunsekiya.com]

第 391 回ガスクロマトグラフィー研究会講演会

主催 ガスクロマトグラフィー研究懇談会

期日 2025年6月27日(金)

会場 北とぴあ15階ベガサスホール〔東京都北区王子1-11-1〕

講演主題 試料前処理・導入法の最新技術と基礎を学ぶ

参加費 GC研究懇談会会員・学生:無料, GC研究懇談会会
員外:3,000円

詳細はガスクロマトグラフィー研究懇談会のwebページに掲
載しています。

(<http://www.jsac.or.jp/~gc/>)

第 42 回分析化学中部夏期セミナー

主催 日本分析化学会中部支部
 期日 2025年9月1日(月)・2日(火)
 会場 御殿場高原時之栖〔静岡県御殿場市神山719, 電話: 0550-87-3700, 交通:(車でお越しの場合)御殿場ICより車で約25分, 裾野ICより車で約10分, (電車・バスでお越しの場合)JR三島駅および御殿場駅より無料シャトルバスをご利用ください。〕
<https://www.tokinosumika.com/access/>
 目的 分析化学および関連分野に携わる産官学の研究者の交流と親睦を図るとともに, 若手研究者の育成と研究発展の一助とする。
 プログラム(内容, 時間等, 変更する可能性があります)
 第1日目(9月1日(月))(13.00~17.30頃)
 招待講演(AS Frontiers代表(元味の素㈱イノベーション研究所所長, 日本分析化学会監事)・宮野 博先生, 東京薬科大学生命科学部・梅村知也先生), ポスドク・プレドク講演, ポスターショートプレゼンテーション
 第2日目(9月2日(火))(9.00~12.00頃)
 ポスター発表, 企業新製品紹介講演
 定員 80名(定員超過の場合は先着順)
 申込先 日本分析化学会中部支部ホームページ(<https://www.jsac.or.jp/~chubu/>)から申込専用フォームにてお申し込みください(専用フォームは近日中に掲載予定)。
 ポスター発表募集締切・参加申込締切 7月18日(金)
 講演要旨集原稿締切 7月25日(金)
 参加費払込締切 7月25日(金)
 参加費 一般12,000円, 学生9,000円
 送金先 三井住友銀行名古屋支店(店番481)普通8110057, (口座名義)公益社団法人日本分析化学会中部支部
 なお, 2人以上の参加費を一括送金される場合は, 内訳を下記問合せ先までお知らせください。
 問合せ先 〒422-8526 静岡県静岡市駿河区谷田52-1 静岡県立大学薬学部 生体機能分子分析学分野 轟木堅一郎〔電話: 054-264-5656, E-mail: todoroki@u-shizuoka-ken.ac.jp〕

—以下の各件は本会が共催・協賛・後援等をする行事です—

◎詳細は主催者のホームページ等でご確認ください。

電気化学セミナー A :
初心者のための電気化学測定法-基礎編

主催 (公社)電気化学会
 期日 2025年6月20日(金)~7月3日(木)
 会場 オンデマンド配信(Vimeo)による動画セミナー
 ホームページ <https://www.electrochem.jp/seminar/>
 連絡先 〒101-0065 東京都千代田区西神田3-1-6 日本弘道会ビル7F (公社)電気化学会事務局 原優美子
 [電話: 03-3234-4213, E-mail: seminar@electrochem.jp]

プラズマ分光分析研究会 2025 筑波セミナー in Tokyo
ICP 質量分析計の動作原理を理解しよう

主催 プラズマ分光分析研究会
 期日 2025年7月3日(木)・4日(金)
 会場 東京大学大学院理学系研究科 小柴ホール
 ホームページ <https://plasma25070304.peatix.com/>
 連絡先 〒192-0392 東京都八王子市堀之内1432-1 東京薬科大学生命科学部分子生命科学生命分析化学研究室内 プラズマ分光分析研究会事務局 大関杏子
 [電話: 042-816-3001, E-mail: office@plasma-dg.jp]

第 53 回薄膜・表面物理セミナー (2025)

「デバイス製造における固液界面現象の科学と技術」

主催 (公社)応用物理学会薄膜・表面物理分科会
 期日 2025年7月4日(金)
 会場 大阪大学中之島センター10F 佐治敬三メモリアルホール4 (ハイブリッド開催)
 ホームページ
<https://annex.jsap.or.jp/tfspd/セミナー：デバイス製造における液固界面現象の/>
 連絡先 (公社)応用物理学会 分科会担当 岡本晋一〔電話: 03-3828-7723, E-mail: divisions@jsap.or.jp〕

第 35 回顕微鏡サマースクール

～来て見て触れて、岡崎の先端顕微鏡～

主催 (公社)日本顕微鏡学会
 期日 2025年8月2日(土)・3日(日)
 会場 自然科学研究機構岡崎コンファレンスセンター
 ホームページ
<https://sites.google.com/nips.ac.jp/jsm-sumsch2025>
 連絡先 (公社)日本顕微鏡学会事務局
 [E-mail: jsm-post@microscopy.or.jp]

第76回コロイドおよび界面化学討論会

主催 (公社)日本化学会コロイドおよび界面化学部会
 期日 2025年9月22日(月)~25日(木)
 会場 千葉大学西千葉キャンパス
 ホームページ

<https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/colloid2025>

連絡先 (公社)日本化学会コロイドおよび界面化学部会 討論
 会委員会委員長(岡山大学)大久保貴弘
 [電話:086-251-7843, E-mail:ohkubo@okayama-u.ac.jp]

第41回近赤外フォーラム

主催 近赤外研究会
 期日 2025年11月12日(水)~14日(金)
 会場 東京大学弥生講堂
 ホームページ <http://jcnirs.org/NIR2025>
 連絡先 〒305-8642 茨城県つくば市観音台2-1-12 農研
 機構 食品研究部門分析評価グループ内 近赤外研究会 池
 羽田晶文
 [電話:029-838-8057, E-mail:office@jcnirs.org]

第46回超音波エレクトロニクスの
基礎と応用に関するシンポジウム

The 45th Symposium on UltraSonic Electronics

主催 超音波エレクトロニクス協会 USE シンポジウム運営
 委員会
 期日 2025年11月12日(水)~14日(金)
 会場 くにびきメッセ
 ホームページ <https://www.use-jp.org/>
 連絡先 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3 日本大
 学理工学部 電気工学科 大隅 歩
 [電話:03-3259-0766, E-mail:use-sponsor-app@iuse.or.jp]

「分析化学」年間特集“波”論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」では2010年より年間特集を企画し、企画テーマに関連する論文を年間を通じて掲載しています。2026年のテーマを「波」と決定しました。

「波」は光の波長と波数を想起させることから、分光分析の基礎および応用についての論文を募集します。例えば以下のような研究について募集を行います。

- 1) 将来的に分析化学に応用される可能性をもった分光測定法の開発
- 2) 分光分析による構造解析, 定量, 微量検出, 化学種同定.
- 3) 表面分光・顕微分光による局所測定とイメージング
- 4) 分光法と類似の情報が得られる中性子や超音波を用いた測定
- 5) 多変量解析や理論計算による分光測定結果からの情報の抽出

一方で、「波」は直接、海や川の表面に起こる波を連想させます。本特集においては、海洋や河川の表層または岸辺を対象とした環境分析についても論文を募集します。

本特集に関する論文は年間を通じてご投稿いただくことが可

能で、審査を通過した論文は、単行の特集号を除く「分析化学」第75巻(2026年)合併号の冒頭に掲載する予定です。多くの皆様方からの投稿をお待ちしておりますので、是非この機会をご活用ください。

特集論文申込締切:2025年7月18日(金) (第1期)

特集論文原稿締切:2025年8月22日(金) (第1期)

「分析化学討論会」特集の論文募集(案)

「分析化学」編集委員会

「分析化学」誌では、毎年第12号に分析化学討論会特集号として、分析化学討論会の討論主題に関連した論文を掲載しております。第85回分析化学討論会では、「化学物質の環境リスクと分析化学」、「生物機能を調査&利用する分析化学」、「科学捜査で役立つ分析化学」、「医薬品・バイオマーカーを定量し、疾患を可視化する分析化学」、「生体試料を対象とする分離分析でのデータサイエンスの活用」、「発酵と酒と泡と分析化学」の6テーマを討論主題として取り上げました。

そこで、2025年度の分析化学討論会特集号では、「多種多様な分析対象に適応する分析化学技術の新潮流」をテーマにしました。本テーマにおいて、第85回分析化学討論会で設けた6つの討論主題に関する論文を広く募集します。多数のご投稿をお待ちしております。詳細は「分析化学」74巻6号及びホームページをご覧ください。

特集論文の申込締切:2025年7月11日(金)

特集論文の原稿締切:2025年8月8日(金)

初めて書く論文は母語の日本語で!
“第24回初執筆論文特集”募集のお知らせ

「分析化学」編集委員会

「分析化学」編集委員会は、2025年(第74巻)に企画しております第24回「若手研究者の初論文特集」の特集名称を変更し、第24回「初執筆論文特集」として原稿を募集いたします。卒研究生、修士・博士課程院生並びに若手研究者の方々にとって、ご自分の研究成果を日本語で投稿できるよい機会です。年間を通して論文原稿を受け付け、審査を経て掲載可能な次第随時掲載いたしますので、奮ってご投稿ください。

なお、詳細は「分析化学」誌HPをご参照ください。

ぶんせき誌「技術紹介」の原稿募集

『ぶんせき』編集委員会

分析化学は種々の分野における基盤技術であり、科学や産業の発達・発展だけでなく、安全で豊かな生活の実現に分析機器が大きく貢献してきました。近年の分析機器の高性能化・高度化は目覚ましく、知識や経験がなくても、微量物質の量や特性を測定できるようになりました。この急速な発展は、各企業が持つ高度で多彩な技術やノウハウによって達成されたといっても過言ではありません。一方、高度化された分析機器の性能・機能を十分に発揮させるためには、既存の手法に代わる新規な分析手法が必要であり、高度な分析機器に適合した分析手法や前処理手法の開発が分析者にとって新たな課題となっています。また、分析目的に合致した高純度試薬の開発に加えて、測定環境の整備、試薬や水の取り扱いなどにも十分な配慮が必要です。極微量の試料を分析する際には、測定原理を把握すると共に、手法や操作に関する知識・技能を身に付ける必要がある

と考えます。

このような背景に鑑み、『ぶんせき』誌では新たな記事として「技術紹介」を企画いたしました。分析機器の特徴や性能、機器開発に関わる技術、そしてその応用例などを紹介・周知することが分析機器の適正な活用、さらなる普及に繋がると考えており、これらに関する企業技術を論じた記事を掲載することといたしました。また、分析機器や分析手法の利用・応用における注意事項、前処理や操作上のコツなども盛り込んだ紹介記事を歓迎いたします。これらの記事を技術紹介集として、『ぶんせき』誌ホームページ内に蓄積することで、様々な分野における研究者や技術者に有用な情報を発信でき、分析化学の発展に貢献できるものと期待しております。分析機器や分析手法の開発・応用に従事されている多くの皆様方からのご投稿をお待ちしております。

記

1. 記事の題目：「技術紹介」
2. 対象：以下のような分析機器、分析手法に関する紹介・解説記事
 - 1) 分析機器の特徴や性能および機器開発に関わる技術、
 - 2) 分析手法の特徴および手法開発に関わる技術、
 - 3) 分析機器および分析手法の応用例、
 - 4) 分析に必要な試薬や水および雰囲気などに関する情報・解説、
 - 5) 前処理や試料の取扱い等に関する情報・解説・注意事項、
 - 6) その他、分析機器の性能を十分に引き出すために有用な情報など
3. 新規性：本記事の内容に関しては、新規性は一切問いません。新規の装置や技術である必要はなく、既存の装置や技術に関わるもので構いません。また、社会的要求が高いテーマや関連技術については、データや知見の追加などにより繰り返し紹介していただいても構いません。
4. お問い合わせ先：日本分析化学会『ぶんせき』編集委員会
[E-mail : bunseki@jsac.or.jp]

9. 本会が討論会、講演会等を共催する場合は、その討論会、講演会等の主要議題が本会の専門分野と関連を持ち、本会正会員が会議の準備、運営等の委員に若干名加わることを条件とする。
10. 本会が共催する討論会、講演会等に対しては、他学協会長等の申し出によって会誌等による広報活動の援助を行う。特に理事会の承認を得て分担金を支出することがある。(後援又は協賛)
11. 討論会、講演会等の後援又は協賛とは、本会がその討論会、講演会等の開催に賛同し、後援又は協賛団体の一つとして、本会名義の使用を認める場合をいう。
12. 本会が討論会、講演会等を後援又は協賛する場合は、その討論会又は講演会が分析化学に関連を持ち、その開催が本会会員にとっても有意義であることを条件とする。
13. 本会が後援又は協賛する討論会、講演会等に対しては、希望に応じ会誌等による広報活動の援助を行うことがある。

「分析化学」の掲載料についてのお知らせ

「分析化学」誌では、2020年4月より論文掲載料を以下の計算式にしたがってお支払いいただき、pdfファイルを進呈することになりました。なお、論文の別刷を希望される場合は、別途別刷頒布料金をお支払いいただくことにより購入することができます。

掲載料金計算式 (P:印刷ページ数)(単位:円)

会員の場合: $30,000 + 5,000 \times (P - 4)$ (印刷ページ数が14ページ以上は一律80,000円)

会員外の場合: $40,000 + 5,000 \times (P - 4)$ (印刷ページ数が14ページ以上は一律90,000円)

*上記に消費税がかかります。

「お知らせ」欄原稿について

支部並びに研究懇談会の役員の皆様：掲載用の原稿ファイルをどうぞ電子メールでお送りください。送り先は shomu@jsac.or.jp です。原稿の長さには制限はありませんが原稿締切日は掲載月の前々月25日(例:1月号掲載→11月25日締切)となっておりますのでご注意ください。

本会外から掲載をご希望の場合は以下をご参照ください。

- 1) 掲載できるものは本会が共催、協賛、後援するものに限られます。
- 2) 国際会議につきましては共催、協賛、後援申請に関する規程並びにフォームがありますので、ホームページをご覧ください。か、本会事務局宛にお問い合わせください。
- 3) 国際会議以外の講演会等に関しましては、会名、会場、主催団体名、同代表者名、開始期日、終了期日、連絡先並びに同電子メールを記載のうえ、書面でお申し出ください。
- 4) 掲載原稿の作成要領に関しましては承諾をご返事する際にお知らせします。
- 5) 本会支部または研究懇談会が共催、協賛、後援を承諾した事業につきましては、その旨をメールにお書きいただき、原稿ファイルを shomu@jsac.or.jp にお送りください。

国際会議以外の共催、協賛、後援に関する規程抜粋(共催)

8. 討論会、講演会等の共催とは、その討論会、講演会等の開催について、本会は主体性を持たず、会誌等を通じて広報活動等の援助を行う場合をいう。